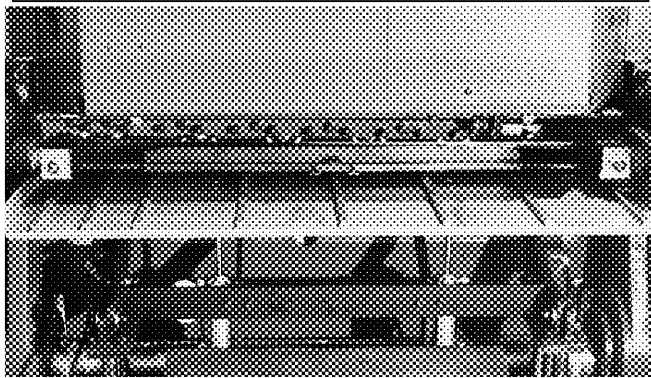


# せん断機に可変送り板

## 相沢鉄工所



水平にした可変シュート

【さいたま】相沢鉄工所（埼玉県川口市、相沢邦充社長）は、鋼板を切断するシャーリング機に設置するオプション装置「可変シュート」を開発した。切断した材料を作業者の手前側に戻すか、機械の後ろに流すかを選べる。コンベヤーを使った従来装置に比べて価格を約2分1に抑えた。シャーリング機とのセット販売で対応機種を増やし、将来は後付けにも対応する予定。

コンベヤー式の半値  
オプション  
設定

シャーリング機で切り板（シュート）で床断した材料は、機械後に落とされるのが一般部に斜めに設置した送的。次の作業に移る時

に作業者は機械の後ろに回って材料を拾い上げなくてはならず、床に落ちた際に材料表面に傷が付くなどの課題があった。

新開発の可変シュートは、シュートを水平にしたり斜めにしたり自在に動かせる。水平で使用すると一度切断した材料をバックゲージを使って手前に押し戻せるため、作業者は後ろに回る必要がなくなる。

短冊状の加工の場合には切断した材料に反り・ねじれが発生して矯正する手間がかかっていたが、手前に残る側を製品とすることでフラット性に優れた加工も可能になった。

参考価格は切断長1・28尺、最大板厚切断能力6・5mmのシャーリング機に設置する可変シュートの場合で260万円（消費税抜き）。

今後は切断長2・0尺、2・5尺、3・1尺に対応したシャーリング機にも可変シュートをシリーズ化する。鋼板だけでなく傷を嫌うステンレスやアルミニウムの加工向けにも用途拡大が期待できる。